

令和6年度 瑞穂市新規採用職員辞令交付式 市長訓示

皆さん おはようございます。

瑞穂市の将来を担う皆さんが、私たちの仲間として加わってくれたことを心から歓迎します。ここ数年は、新型コロナウイルス感染症の影響で日常生活が大きく変わったと思いますが、今年は、皆さんをマスクなしで迎え入れできたことを大変うれしく思います。

今年は、新年早々から大きな災害が起き、今なお被災地では8000人を超える方々が避難所で苦しいで生活しておられます。今日も、明日から避難所支援に向かう当市の職員2名の激励を行いました。このような時こそ、私たち行政がしっかり支援をしなければならないと考えています。

桜の開花も少し遅れましたが、皆さんを迎えるかのように、穂積庁舎周辺の桜も咲き始めました。

私は、新年度を迎えるたびに、中国の唐に時代から漢詩にある「年年歳歳 花相似たり 歳歳年年 人不同じからず」を思い出します。花は年ごとに変わらず美しく咲きますが、人は、3月31日に任期が満了となる人、そして4月1日になると新たな人を迎える。これは、年ごとに同じではないと思います。

3月31日をもって長年にわたり市のために尽された職員が退職し、本日新たに18名の仲間が加わりました。新しく職員になった皆さんは、お互い異なる環境で生まれ育ち、学んできたことも、性格も、趣味も、人生観も違います。それぞれに違いがあり、個性的であるからこそ、新しい考えやアイデアが生まれ、瑞穂市に活かされるのだと思います。今日から皆さんは、市民の暮らしや安全を守ること、一緒にまちづくりを行い、そして市を支える瑞穂市職員になりました。

私たちは、市民の生命に関わる災害や事故が発生すると、通常業務を超えて最前線に対応しなければなりません。市民の安心・安全を守るとは、このまちに愛着がなくてはできません。また、市外のかたからは「瑞穂市に住みたい」、市民からは「瑞穂市に住み続けたい」と言ってもらえるような仕事をするには、瑞穂市に愛着がなくてはできません。その愛着度は、皆さんが、これから仕事の中で高めてください。

そこで3つことをお伝えします。

1つ目は「市民目線を大切にすること」です。

公務員としての服務や法令遵守はもちろんのこと、責任を持って「市民が求めていることを果たしているか」、また「期待に応える働きができているのか」市民の思いを丁寧に汲み取り、自分に問いかけながら市民から信頼される対応に努めてください。

2つ目は「伝えること」=コミュニケーション能力を高めることです。

相手にこちらのことを理解してもらうには、受け手の立場や状況を考えて、どうすれば相手にその情報が伝わるか配慮しながら、言葉を選ぶことが大切です。

現在の行政課題には、他部署にわたる複雑に入り混じった事案が多くあり、その場面の状況を理解し、職員同士もコミュニケーションを高めてひとつの仕事をしていかなければなりません。目的をもち、その目的に応じて必要な情報を見つけ、考えをまとめ、相手に「気持ち」「こころ」を込めて伝えることです。まずは、挨拶から始めて、職員同士の信頼関係を築いてください。

3つ目は「美しい仕事」をしてください。やる気と行動力を持つことです。まずは、自分に与えられた足元の仕事をしっかりと最後までやりぬくことが重要です。それが次第に美しい仕事になると私は思います。

組織全体の目標を示し、全職員が共有し、同じベクトルに向けて仕事を進めることで、スピード感のある美しい仕事になると思います。やらされるのではなく、押しつけ合うのではなく、自発的に動くことが美しいと思います。

以上の3点は、瑞穂市職員としていつまでも必要なこととなりますので、記憶しておいてください。ここまでお話したことは昨年とほとんど変わりません。物事には、変わらない、変えてはならないことがあります。

これからの話す現在の瑞穂市の状況は、毎年変わることに、変えていかなければならないことです。

昨年の5月1日に瑞穂市は、市制施行20年となりました。瑞穂市では、市制20周年を機に「人権の尊重」「平和の維持」「環境の改善」の3つ宣言が揃い、次代を担う子どもたちに瑞穂市を繋いでいきたいと考えております。

昨年度は、20周年をお祝いするため多くの記念事業を実施し、3月24日のNHK公開放送「のど自慢」で締めくくりました。

今年度は21年目になり、計画を立てる年と位置付けています。

市の最上位計画である「第3次瑞穂市総合計画」や「都市計画マスタープラン」そして「子ども計画」。これらの計画を、これから10年先、15年先どんな社会になるのかを見据え

て立てていきます。

今年の1月4日に「瑞穂市こどもまんなか応援サポーター宣言」をしました。昨年4月に国では「子ども家庭庁」が設けられ、「こども真ん中社会」の構築を目指しています。子どもは、自分で吸収して成長しようとするチカラを持っています。私たち大人は、そのチカラをそれぞれの立場でサポートし、成長の手助けをしてあげることが「瑞穂市こどもまんなか応援サポーター宣言」です。

「子どもたちにとって一番いいこと」とは何か。瑞穂市の子どもたちのために、何が最善であるのか、課題は何かあるのかを考えていかなければなりません。子どもたちが、今どんな考えや意見を持っているかを聞きに、市内保育所、幼稚園、小学校、中学校に足を運びたいと思っています。

瑞穂市では、地方創生の3つの拠点を整備しています。

1つ目は、「サンコーパレットパーク」です。子どもを中心に、関係人口・交流人口を増やす拠点として定着しましたので、中山道のまちづくりへと指定管理者制度などを導入していかなければなりません。

2つ目の拠点は、市の玄関口である「JR穂積駅周辺整備」です。南口からの都市計画決定を9月に予定し、さらに本巢縦貫道別府交差点の改良工事、「エキサイト・サードプレイス」は、確実にしていかないとなりません。

3つ目は、犀川遊水地整備事業において、隣接する牛牧排水機場が今年度末に完了し、牛牧樋門周辺の整備、そして、公共下水道アクアパークみずほの整備を含めた一帯の「犀川遊水地グリーンインフラ基本構想」から「かわまちづくりへの登録を進めていかないとなりません。この地区にあります牛牧第1保育所の公私連携保育事業も今年度中に建設がすすめられ、来年4月に開園する重要な年となります。

結びに

これから皆さんと一緒に仕事することになりますが、仕事とは英語でワークと表記します。ワークの意味には、仕事や作業の他に、作品という意味があります。仕事は皆さんが造りだす作品、皆さんしか造れない作品だと考えてください。より良い作品を造り出すためには、多くの知識を得ることと、瑞穂市に、そして仕事に愛着を持ってください。

瑞穂市職員として、瑞穂市に愛着と誇りと、そして今日の初心を忘れず、皆さんの活躍に期待し、私からの訓示といたします。

令和6年4月1日

瑞穂市長 森 和 之